

教育の理念

社会学科は、尊厳と公正を重んじ、現代社会の諸現象に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定、調査と分析の能力を体得し、幅広い教養と専門的知識、技術を自らの社会的実践に活かせる、現代社会の多様性と変化に対応できる人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学科社会学専攻は、専門的な講義科目を受講することによって、社会学の体系的なリテラシーを習得していること、演習・実習科目を履修することによって、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得していること、さらには卒業論文・演習レポートを執筆することによって、自らの問題意識に基づき、的確に問題設定を行い、その解答を導き出すとともに、社会に対してそれを発信できる表現力を身につけていること、以上によって所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会学) の学位を授与する。

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できるための社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な単位を修得した学生に対して卒業を認定し、学士 (社会福祉学) を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

建学の理念を理解し、自らを高める自己形成と社会学・社会福祉学の学問領域とを密接に関連付けることのできる「駒澤人」としてのアイデンティティを備えている

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性]

幅広い教養と洞察力をもとに、専門教育を通じて豊かな感性と人権意識、現代社会の多様性を理解し尊重する態度を身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力]

社会学と社会福祉学における専門的知識・技術を体得するとともに、社会的・福祉的視点を活用した情報分析能力を活かし、主体的に問題設定を行い、それを解決する力や表現する力を体得している。

(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性]

他者と主体的に協働するコミュニケーション能力、自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力および文章力を身につけている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性]

体系的に修得した専門知識や技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、社会に発信・貢献できる能力を身につけている。また福祉専門職を目指す学生については、それぞれの福祉現場で必要となる知識や支援技術を十分に体得し、実践力の高い応用力を身につけ、福祉現場に主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		◎						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	◎	◎		○				◎	◎	◎		◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○			◎	○	○	○	◎		
	DP4	コミュニケーション能力			◎	○	○		◎	○	○	○	◎	○	○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	◎	◎		◎	○	○	○	◎	○	◎

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

社会学専攻、社会福祉学専攻ともに、ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力の習得を目標に、基礎から応用・発展までの科目を学年ごとに配置している。各専攻とも3つの軸に沿ってカリキュラムを体系化している。

社会学専攻の3つの軸は以下のとおりである。

- ① 人間と社会を把握する力を育成する（DP1、DP2）
- ② 社会の実態を調査する力を育成する（DP3）
- ③ 問題を発見し、解決する力を育成する（DP4 と DP5）。

社会福祉学専攻の3つの軸は以下のとおりである。

- ①福祉分野の幅広い知識を修得し、人間社会と福祉についての素養と深い洞察力を育成する。（DP1、DP2）
- ②福祉分野の諸問題に関して主体的に問題設定を行い、それを調査・分析して問題解決策を考察できる力を育成する。（DP3）
- ③福祉分野の専門技術教育を通じ、全学生が福祉的コミュニケーション能力を体得するとともに、福祉専門職志向の学生には社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育を通じ、高い実践能力を有したプロフェッショナル教育を実施する。（DP4、DP5）

なお、教育の方法としてはアクティブ・ラーニングやeラーニングの活用、少人数専門演習・実習による手厚い指導などが特徴である。詳細については、各専攻の記述を参照されたい。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人育 成基 礎プ ログ ラム 全学 共通 科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1～2			◎			社会的・職業的自立、実社会への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育						◎		状況に応じて「話すこと」「聴くこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育						◎		日本語の「読むこと」「聴くこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2～4	1～4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1～2	1～2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、他言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1～2	1～4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門 教育 科目	導入教育科目	2-4	1	○	◎	◎	◎	◎	専門分野を学ぶために必要な基礎的な知識と方法を身につける。
	講義科目	2～4	2～4	○	◎	○	○	◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	2～4	2～4	◎	◎	◎	◎	◎	専門分野の講義で修得した知識を基に、もしくは専門分野の講義との相乗効果のために、各種社会的実践現場における実習を行う。
	演習科目	4	3～4	◎	◎	◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員およびメンバーと密なコミュニケーションを取り、議論や発表、演習レポートの作成を行う。
	卒業論文	8	4	○	◎	◎	◎	◎	学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会学科が求める学生像

- (AP1) 高等学校までの教育内容を幅広く修得し、「自ら学ぶ力」を身につけているとともに情報リテラシーを体得している。社会学専攻では特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を身につけている。
〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学の建学の理念を理解し、社会や福祉の専門領域に関心を持ち、社会学科で学んだ知識・経験を社会に出てから活用したいという意欲をもっている。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現代社会に対して強い問題意識を持ち、社会をより良くしていきたいという願いと意欲を持っている。また、現代社会の諸現象、問題について、様々な情報に基づき、自ら考察を行い、その結果をわかりやすく説明できる基本的な能力を身につけている。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の相違を認識し、社会倫理・福祉倫理を理解し、他者を尊重し、主体的に協働していく能力や意欲を身につけている。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

社会学科には 2 つの専攻がある。それぞれ入学前に修得することが望ましい教科や取り組むべき学習習慣については、以下のとおりである。

<社会学専攻>

- ・高等学校で学修する教科・科目を幅広く修得する。特に、英語 4 技能の運用能力や国語の基礎能力を身につける
- ・評論などに触れて読解力を高めたり文章を書く機会を増やし、論理的な文章の読み書きに努める
- ・国内外のニュースに関心をもって新聞や書籍から情報収集し、社会的事象の背後にある社会構造にも関心をもつ
- ・社会的なテーマについての課題発見・分析に努めるほか、視野を広げて多様な文化・価値観を尊重する姿勢を身につける
- ・社会貢献、社会参加活動に積極的に参加し、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組み、自身の考えを発表する機会をもつ

<社会福祉学専攻>

- ・社会に対する理解を深めるために、ニュース番組の視聴や新聞を読む習慣を身につけておく
- ・読書習慣を身につけ、常に問題意識を持つことや、論理的思考を磨いておく
- ・支援活動や社会的活動（ボランティア活動）に主体的・積極的に参加し、その成果や感想をまとめ発表しておく
- ・高齢者、障害者、子ども、外国人など、多様な人々との交流を深めておく

教育の理念

社会学専攻は、現代社会の諸問題に対して観察眼を有し、問題発見と課題設定の能力を体得し、幅広い教養と社会学の専門的知識、技術を社会的実践に活かせる人材を育成する。

複雑で多様な現代社会への理解を深めるために、幅広い講義科目とフィールドワークに基づき現実社会を体験する少人数制の演習、実習科目によって、「幅広く応用のきく知識と技能を身につける教育」「懇切丁寧な教育」を行い、グローバル社会、共生社会に対応できる高い人間力と問題解決能力を有した人材を育成することを教育の理念とする。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

上記のような人材育成のために、社会学の専門的な講義科目を履修することによって、社会学の体系的なリテラシーを習得していること、演習・実習科目を履修することによって、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得していること、さらには卒業論文・卒業レポートを執筆することによって、自らの問題意識に基づき、的確な問題設定を行い、その解答を導き出すとともに、社会に対して発信できる表現力を身につけていること、以上によって所定の期間在学し、所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会学) の学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

必修科目である「仏教と人間」を履修することにより、仏教の教えと禅の精神についての理解を深め、自分を高める自己形成と社会学という学問領域を密接に関連付けることができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを身に着けていること。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性]

多様な教養科目、専門科目を履修することにより、豊かな感性と鋭い洞察力、幅広い教養を身につけ、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解し、他者を尊重することができること

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力]

社会学におけるカリキュラムを十分に習得することにより、データ処理に関する情報リテラシーを体得し、また演習科目を履修することにより、主体的な問題意識と問題解決能力を体得していること

(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性]

他者と主体的に協働する能力と自らの考えを論理的かつ明確に伝えるプレゼンテーション能力と文章力を身につけていること

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性]

体系的に修得した社会学における専門知識や社会調査にかかわる技能・技術を、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に活用し、社会に発信・貢献できる能力を身につけていること

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎		○				◎	◎	◎		◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○				○	○	○			
	DP4	コミュニケーション能力			○	○	○	◎	○	○	○	◎	○	◎	
	DP5	専門分野の知識・技能の活用	◎		○	◎	○	◎	○	○	○	◎	○	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力の修得を目標に、社会学専攻の科目の系統は、1年次に履修する全学共通科目の入門・導入科目等を基礎とした上で、育成目標となる力によって大きく3つに分類され、それぞれにおいて基礎から応用・発展までの科目を学年ごとに配置している。教育課程の体系性は、履修系統図とナンバリングによって示される。

- ①人間と社会を把握する力を育成する（DP1 と DP2）【CP1】
- ②社会の実態を調査する力を育成する（DP3）【CP2】
- ③問題を発見し、解決する力を育成する（DP4 と DP5）【CP3】

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1. 教育内容

- 1) 「人間と社会を把握する力を育成する」科目には、社会学の基礎を学ぶ講義と演習科目（社会学概論、社会学の歴史、社会学の理論など）、社会学の応用・発展としての各論に相当する講義と演習科目、さらに社会学の隣接領域（人類学、心理学、社会福祉学、社会政策論など）に関する科目が含まれる。
- 2) 「社会の実態を調査する力を育成する」科目は、社会調査や統計、情報処理などの講義と演習・実習科目である。
- 3) 「問題を発見し、解決する力を育成する」科目は、社会参加実習や社会調査実習などのフィールドワークの実践、専門演習（ゼミ活動としてのフィールドワークの実践と卒業論文や演習レポートの執筆）が相当する。

これら1～3の科目を基礎から応用まで学ぶことにより、社会学の体系的なリテラシーを習得し、自らの問題意識の発見と問題解決能力を体得することが可能となる。また、一般財団法人社会調査協会による「社会調査士」資格の取得も可能となる。

2. 教育方法

- 1) 演習・実習科目においては、積極的にアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行っており、講義科目においても、リアクション・ペーパーなどの活用により、可能な限りアクティブ・ラーニングを取り入れて授業を行っている。
- 2) 社会学専門演習については、事前に募集説明会やゼミ公開を実施し、担当教員による選抜を行っている。1つのゼミあたりの上限定員を設けて特定のゼミに学生が集中しないように配慮し、少人数制の下、担当教員による手厚い指導を行っている。
- 3) 社会学専門演習Ⅲにおいては、自らの関心に基づいた研究テーマにより、四年間の集大成としての卒業論文もしくは演習レポートの執筆を必須としている。なお、卒業論文もしくは演習レポートの指導における専門性をより高めるために、専門演習ⅠbからⅡ、ⅡからⅢへは持ち上がりを基本としている。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤大学 全学共通科目 人育成基礎プログラム	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1-2			◎			社会的・職業的自立、実社会への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育						○		状況に応じて「話すこと」「聴くこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育						○		日本語の「読むこと」「聴くこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2-4	1-4		◎				多面的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1-2	1-2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、他言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
専門教育科目	健康・スポーツ分野	1-2	1-4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
	社会学基礎演習（導入教育科目）	2-4	1	○				◎	専門分野で学ぶために必要な基礎的な知識と方法を身につける。
	各種専門講義科目	2-4	1-4		◎	◎		◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	社会参加実習、社会調査実習などの実習科目	2-4	1-4	◎	◎	◎	◎	◎	専門分野の講義で修得した知識を基に、もしくは専門分野の講義との相乗効果のために、フィールドワークや社会調査を行う。
	各種社会調査演習、講読演習、社会学専門演習などの演習科目	4	1-4	○	◎	◎	◎	◎	◎
卒業論文	8	4	○	◎	◎	◎	◎	◎	学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会学専攻は、駒澤大学、文学部及び社会学科入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会学科社会学専攻の求める学生像

- (AP1) 高等学校の基礎的な学力を身につけている。特に「国語総合」、「英語」の基礎的な学力を身につけている。さらには、情報通信技術を使いこなし、データを読み解くことができる情報リテラシーを体得している。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 本学が仏教の教えと禅の精神を建学の理念とする大学であることを理解している。さらには、社会学科社会学専攻での学びを主体的な自己形成につなげ、学んだ知識や経験を社会に出てから活用したいという強い意欲をもっている。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現代社会に強い関心があり、社会をより良くしていきたいという願いを持っており、広く社会に目を向け、幅広い知識を養おうとする態度を身につけている。そして、現代社会における諸現象、問題についての様々な情報に基づいて社会の仕組みを理解しようと努めるとともに、自ら考察を行い、その結果を他者にわかりやすく説明できる基本的な能力を身につけている。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の相違を認識し、他者とのかかわりあいの中で他者を尊重し、主体的に協働できるコミュニケーション能力と意欲を身につけている。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・高等学校で学修する教科・科目を幅広く修得する。特に、英語 4 技能の運用能力や国語の基礎能力を身につける
- ・評論などに触れて読解力を高めたり文章を書く機会を増やし、論理的な文章の読み書きに努める
- ・国内外のニュースに関心をもって新聞や書籍から情報収集し、社会的事象の背後にある社会構造にも関心をもつ
- ・社会的なテーマについての課題発見・分析に努めるほか、視野を広げて多様な文化・価値観を尊重する姿勢を身につける
- ・社会貢献、社会参加活動に積極的に参加し、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組み、自身の考えを発表する機会をもつ

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。

自己推薦選 抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、専攻の求 める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。面接・口 頭試問はグループ討論形式で行う。
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎	
	特性評価型	書類審査	◎	○	○	○	本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、専攻の求 める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。特に、社 会的な活動・研究において、秀でた実績を挙げている学生を積 極的に受け入れる。面接・口頭試問は、プレゼンテーション形式 で行う。
		面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎	
	特別選抜	スポーツ推薦選 抜	出願書類	◎	○		
事前課題			◎		○		
面接・口頭試 問			○	◎	◎	◎	
指定校推薦選抜		出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学 力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目 的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を 行う。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎	
附属高等学校等 推薦選抜		出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、 かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学 生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を 対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
社会人特別選抜		出願書類	○	○			社会人としての経験を活かしながら学び、社会に貢献する主体 的意欲を持つ学生の受け入れを目的とする。また、社会人に大 学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づく りに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学 内の活性化を図る。
		小論文	◎	◎	◎	◎	
		教科	◎				
		面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎	
帰国生特別選抜	出願書類	○	○			外国における生活・学習経験から、日本社会の現状を相対的視 点でとらえ、社会に貢献することをめざす学生の受け入れを目 的とする。また、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲 旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。	
	筆記	◎					
	教科	◎					
	面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎		
外国人留学生選 抜	出願書類	○	○			日本において社会学を学ぶ意欲があり、国籍を超えて社会学の 専門知識・技術を活用することをめざす学生の受け入れを目的 とする。また、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れに より、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構 が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。	
	日本留学試 験(成績)	○					
	筆記	◎		◎	◎		
	面接・口頭試 問	○	◎	◎	◎		

編入学者選抜	出願書類	○	○			<p>これまでの学びで体得してきた知識と技術を応用し、社会学の関連分野で活躍することを希望する学生の受け入れを目的とする。</p> <p>大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。</p>
	筆記	◎		◎	◎	
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	

教育の理念

社会学科社会福祉学専攻は、建学の理念のもと、幅広い教養と福祉の専門知識・技術、ならびに平和・人権・社会正義を基本とする倫理観を体得し、「温かい心と冷めた頭」をもって人間社会の発展に貢献できる人材を育成する。

卒業認定・学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

社会学科社会福祉学専攻は、福祉の諸問題を客観的、科学的に分析し、実践的に対処できるための基本的で幅広い知識と専門知識・技術を身につけ、現代社会の多様性に柔軟に対応できる社会人・職業人を育成することを目的とし、以上に述べた事項を達成するために必要な科目を修めた学生に対して卒業を認定し、学士 (社会福祉学) を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力 [理解、関心、意欲、態度、主体性]

建学の理念を理解し、自己形成と学問研究を通じて社会で活躍できる「駒澤人」としてのアイデンティティを備えている。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重 [知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性]

幅広い教養と洞察力をもとに、専門教育を通じて人権意識と現代社会の多様性を理解し尊重する態度を身につけている。

(DP3) 情報分析力と問題解決力 [技能、思考力、判断力、表現力]

社会福祉学における専門的知識・技術を体得するとともに、主体的な問題意識に基づいて問題設定を行い、それに対する解決力や表現力を体得できている。

(DP4) コミュニケーション能力 [技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性]

情報分析能力、及び福祉的視点を活用したコミュニケーション能力を有している。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力 [知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性]

専門教育を通じて身につけた知識・技術を活用し福祉的視点から広く一般社会に貢献できる。また福祉専門職を目指す学生については、それぞれの福祉現場で必要となる知識や支援技術を十分に体得し、実践力の高い応用力を身につけ、福祉現場に主体的に貢献することができる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		◎						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	◎	◎								◎		◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力	◎		◎	○		◎					◎		
	DP4	コミュニケーション能力			◎			◎				○	○		○
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎		◎				○	○	◎		◎

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

ディプロマ・ポリシーに掲げた5つの能力の修得を目標に、社会福祉学の基礎知識の獲得を目指すための理論教育、社会福祉実践の基礎となる方法論教育、及び社会福祉の援助技術の獲得に向けた演習・実習科目（学外の配属実習を含む）、主体的な課題発見能力と問題解決能力を獲得させるための少人数による演習科目とゼミ論・卒業論文の執筆、将来の職業選択を踏まえたキャリア関連科目等を体系的に配置している。特に、卒業後の希望進路に応じた履修モデル（福祉専門職系、福祉教養系その他）を基に、演習を中心とした段階的かつ系統だった指導カリキュラムを通じて、学生の進路希望や適性に応じたキャリア指導を展開する。

- ①福祉分野の幅広い知識を修得し、人間社会と福祉についての素養と深い洞察力を持った学生を育成する。（DP1、DP2）
- ②福祉分野の諸問題に関して主体的に問題設定を行い、それを調査・分析して問題解決策を考察できる学生を育成する。（DP3）
- ③福祉分野の専門技術教育を通じ、全学生が福祉的コミュニケーション能力を体得するとともに、福祉専門職志向の学生には社会福祉士・精神保健福祉士の養成教育を通じ、高い実践能力を有したプロフェSSIONAL教育を実施する。（DP4、DP5）

1. 教育内容

- 1) 福祉分野の幅広い知識を修得する科目として、入門的科目（社会福祉の原理と政策、医学概論、心理学と心理的支援、社会学と社会システム、介護概論、介護技術など）と応用的科目（児童・家庭福祉、障害者福祉、高齢者福祉、社会保障、貧困に対する支援、地域福祉と包括的支援体制、社会福祉学特講Ⅰ～Ⅴなど）を配置している。
- 2) 福祉分野の調査・分析力を修得する科目として、情報処理論、社会福祉調査の基礎、社会福祉基礎演習、社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱなどを配置している。
- 3) キャリアに関する専門科目を配置し、福祉専門職志向の学生は社会福祉士・精神保健福祉士の指定科目（ソーシャルワーク実習A・B、精神保健福祉実習A・Bを含む）を通じて専門職としての技能を体得する。また福祉を教養として学びたい学生は、キャリア発達演習を通じて自らのキャリアをデザインしていく。

2. 教育方法

- 1) 講義科目においては、eラーニングシステムやリアクション・ペーパーの積極的な活用を図るとともに、学生による授業アンケートの結果をふまえた授業改善などによって学習効果を高める工夫を常に心がけている。演習・実習科目においては、各種のアクティブ・ラーニングの技法を導入し、学生との双方向の授業を展開して学生の主体的な学びの環境を整えている。
- 2) 必修科目として設置されている演習科目（ヒューマンサービス演習（1年次）・社会福祉基礎演習（2年次）・社会福祉専門演習Ⅰ（3年次）・社会福祉専門演習Ⅱ（4年次））では、小集団でのフィールドワークや体験型学習による問題意識の形成、文献研究等による研究の進展、プレゼンテーションツールを活用した多様な研究発表と議論を学年進行に応じて段階的に実施することで学生の能動的学習を促進させている。特に、専門演習では学生の2年次までの学習成果を踏まえて、各自の興味・関心に沿った研究テーマをもとに主体的にゼミを選択し、少人数による専門性の高い研究指導の機会を確保している。
- 3) 専門実習（ソーシャルワーク実習A・B、精神保健福祉実習A・B）は、学生の適性に応じて個別調整と指導を行っている。またキャリア発達演習では、さまざまなキャリア開発教材を用いて社会人基礎力を十分に身につけられるようにしている。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1-2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育								課題がある「話すこと」「聴くこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育								日本語の「読むこと」「聴くこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2-4	1-4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1-2	1-2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、他言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1-2	1-4	◎					スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目	導入教育科目	4	1	○	◎				専門分野で4年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2-4	1-4		◎				専門分野の知識を体系的に身につける。
	実習科目	2-4	2-4				◎	◎	専門分野の講義で身につけた知識を基に、福祉実習を行う。
	演習科目	4	2-4			◎	◎	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、議論や発表を行う。
	卒業論文・卒業研究	4	4			◎		◎	4年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

社会学科社会福祉学専攻は、駒澤大学、文学部及び社会学科入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行う。

1. 社会学科社会福祉学専攻が求める学生像

- (AP1) 高等学校段階までの教育内容を幅広く修得しているとともに情報リテラシーを修得していること。
〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 建学の理念を理解するとともに、現在の福祉社会に関する関心を持っていること。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 現在の福祉社会に関する問題意識に基づき、主体的・積極的に学びを深めるとともに、学習成果を社会に還元する意欲を持っていること。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 多様な文化・価値観の違いや福祉倫理を理解し、他者と協働していく意欲を持っていること。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・ 社会に対する理解を深めるために、ニュース番組の視聴や新聞を読む習慣を身につけておく
- ・ 読書習慣を身につけ、常に問題意識を持つことや、論理的思考を磨いておく
- ・ 支援活動や社会的活動（ボランティア活動）に主体的・積極的に参加し、その成果や感想をまとめ発表しておく
- ・ 高齢者、障害者、子ども、外国人など、多様な人々との交流を深めておく

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。○:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、専攻の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		小論文		○	◎		
		面接・口頭試問	○	○	○	○	
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	○	○	◎	

指定校推薦選抜	出願書類	◎	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
	事前課題	◎		○		
社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人としての経験を活かしながら、福祉社会の形成に貢献する主体的意欲を持つ学生の受け入れを目的とする。また、社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
	小論文		○	◎		
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	○	◎	◎	
帰国生特別選抜	出願書類	○	○			外国における生活・学習経験から、日本の福祉社会の現状を客観的視点でとらえ、日本社会に貢献することをめざす学生の受け入れを目的とする。また、国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
	筆記		○	◎		
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	○	○	◎	
外国人留学生選抜	出願書類	○	○			日本における社会福祉の実際を学び、母国において、または日本において福祉の専門知識・技術を活用することをめざす学生の受け入れを目的とする。また、国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。
	日本留学試験(成績)	◎				
	筆記	○		◎		
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
編入学者選抜	出願書類	○	○			これまで学び体得してきた知識と技術を応用し、社会福祉分野で活躍することを希望する学生の受け入れを目的とする。大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。
	筆記		○	◎		
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	○	◎	◎	